

## 令和6年度 第1回「大川の駅」整備推進協議会 議事録

日時：令和7年2月5日（水）14：00～

場所：大川市文化センター 小ホール

会員：別紙名簿のとおり

### 1. 開会

### 2. 市長あいさつ

市長：本日は、公私ともご多忙の折に、本推進協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。

「大川の駅」整備推進協議会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本推進協議会につきましては、「大川の駅」事業に賛同する団体、機関等から推薦された皆様で構成され、令和2年7月に設立総会を開催いたしました。ご参会の皆様には、これまで、「大川の駅」整備に係る調査・研究、要望活動、全体計画の答申など、「大川の駅」構想実現のため、長きにわたりご尽力いただきましたことを心から感謝申し上げます。

また、鳩山二郎衆議院議員、秋田章二県議会議員をはじめ、この「大川の駅」事業に携わっていただいた関係者の皆様や、国土交通省及び福岡県の皆様方に対しましても、多大なるご理解とご支援を賜りましたことを、深く感謝申し上げます。

ここで、改めてこれまでの経過を申し上げますと、道の駅の整備につきましては、執行部内におきまして、その整備候補地も含めて議論を蓄積してまいりましたが、鳩山元市長時代の平成27年10月の経営会議におきまして、「道の駅、川の駅の場所を大野島とする」方針決定をいたしました。

その後、市議会に対しましても、この方針について説明をし、議決を要する案件につきましては、ご審議の上、議決をいただきながら進めてまいりました。

しかしながら、皆様ご承知のとおり、昨年9月末の選挙の結果を受け、最終的に必要な手続きを経て「大川の駅」を廃止する決定をいたしました。

本日は、この後、担当者より「大川の駅」事業について、ご報告させていただきます。

よろしくお願いいたします。

### 3. 会長あいさつ

会長：先ほど市長からも挨拶がありましたが、国土交通省及び福岡県の方からも、たいへん寒い中、足元の悪い中に、本年度第1回の「大川の駅」整備推進協議会に参加いただき、誠にありがとうございます。

現在ここにおられる会員は、令和5年7月25日に大川市より委嘱をされた方々であります。任期は2年です。今年7月までになろうかと思っております。これまで「大川の駅」整備推進協議会は、年に2回ほど開催してまいりました。具体的な内容につきましては、検討部会で進められてきたところでございます。国県の皆様には、ご指導いただきましたことを改めて御礼申し上げます。

ここで、これまでのいきさつについて、少し説明したいと思います。

私たちが暮らす大川市は、筑紫次郎と呼ばれる大河「筑後川」と宝の海「有明海」が出会う場所に位置しています。筑後川の雄大な姿は、私たちの原風景であり、心のよりどころとなり、大川市のまちづくりの基礎となって、市の発展に寄与してきました。

大川市の「ものづくり」の歴史は、筑後川上流の日田から筏を組んで運ばれてきた木材を加工し、船を造っ

た船大工職人を起源としていると言われています。約480年の歴史を誇る日本一のインテリア産業の町であります。現在国内では、インテリア産業の集積地、産地は大川市以外にはありません。製材から加工、販売、物流、木工機械に至るまで、大小多くの事業所が繋がり、それぞれの役割を担い、食物連鎖のようなエコシステムを形成しています。

これまで、私たちは、多くのモノを作ってきました。それは、船や家具などの工業製品に限らず、筑後平野で育つ米、麦、イチゴをはじめとする農作物。豊かな恵みを与えてくれる筑後川・有明海からは、海苔や牡蠣、アサリ、エツ、ウナギなどの海産物。これらのモノを私たちは、日本全国に、そして世界各国に今も供給し続けています。

これからは、私たちが作る多くのモノを、より進化させ、AI や ICT を駆使した戦略で、インターネットを通じて世界中の人々に情報を発信し、さらにコミュニケーションを図り、実際に大川市に来ていただき、私たちが誇るモノを間近に見て、手に取って、あるいは口にして、ものづくりの「すばらしさ」を感じてもらわなければならないと、思っているところでございます。

しかしながら、大川市には、現在、そのようなことを実現するための、多くのお客様をお迎えできる、地域の核となる産業振興や観光情報発信・交流を担う大きな拠点施設がございません。

今後、有明海沿岸道路の建設が進み、近い将来、三池港、九州佐賀国際空港が有明海沿岸道路で繋がり、この陸海空のインフラ整備が完成すれば、人とモノの流れがより活発化していくことは明らかであります。大川市が、この好機を活かすことが重要であると同時に、大川市だけでなく、近接する福岡県南地域や佐賀県地域を含む「環有明海地域」が連携を強化し、この地域の一体的な経済的浮揚を図らなければ、地域の未来はないと考え、広域的な拠点施設の必要性を感じ、大川市は、「大川の駅」構想を打ち出したのです。

そして、この「大川の駅」は、我々が先祖から受け継いできた有明海、筑後川の恵みや美しい魅力的な風景、遠い昔から培ってきた匠の技や心を、次世代の子供たちへ繋ぎ、新しい未来の見える希望にあふれた産業振興・観光振興の拠点として、この地域の生き残りを賭けた、絶対に成功させなければならない事業でありました。

先ほど市長が言われた「大川の駅」を廃止するという話は、私は市長から直接伺ったことはありません。新聞報道等で知ってはいましたが、江藤市長から聞いたのは今日が初めてであります。

本日は、この後、担当者より「大川の駅」事業について、ご報告させていただきますので、皆様よろしく願いいたします。

## 4. 報告事項

### (1) 「大川の駅」事業について

事務局説明：「大川の駅」事業に係る経過についてご説明いたします。

特定事業として選定した「大川の駅」(仮称)整備・運営事業について、令和6年2月29日に募集要項等を公表し、公募を開始いたしました。参加表明のあったすべての事業者グループより9月30日に辞退届が提出されました。これを受けまして、11月11日に開催された定例議員協議会にて、「大川の駅」(仮称)整備・運営事業に係る特定事業選定の取消しについて報告を行い、同日、市HPにて公表いたしました。

その後、12月23日の経営会議、この会議は市の方針、政策について協議を行う会議であります。この会議におきまして、市として「大川の駅」事業廃止の方針決定を行い、市議会に対して1月10日に開催された定例議員協議会におきまして、「大川の駅」事業廃止の方針決定を行ったことの報告を行っています。

なお、今後の対応につきましては、関係機関と協議の上、進めさせていただきます。

(質疑応答)

会員：市長にお尋ねする。「大川の駅」に賛成する市民も多くいると思う。賛成する市民から「大川の駅」事業を継続してほしいとの要望があった場合は、市長はどうするのか。

市長：もちろん賛成の方もいらっしゃるが、私はノーサイドということで、賛成の方々とも色々な話をしており、ご理解をいただけるように努めている。

会員：市長がなぜ「大川の駅」事業に反対するのか分からない。「大川の駅」事業は、これまで計画策定から用地買収、地盤対策工事、事業者募集に至るまで各段階で、議会を含め関係機関との合意形成を図りながら事業を進められてきた。市長は、「大川の駅」事業に関する疑問点を市職員に質問されたのか。事業廃止ではなく一時凍結にして、正確な情報を整理したうえで改めて市として方針決定すべきであると考えが如何か。

市長：色々な意見があろうかと思うが、これは選挙結果、民意を受けての結果であるので、ご理解いただきたい。

会員：市長から事業廃止ということを知ったが、私はこの結果を非常に残念に思っており、まだ多くの市民も同じ気持ちを持っていると思われる。市長は、選挙期間中に大野島地区に対して大変失敬なことを言われた。大野島の名誉のために説明しておく。市長は、大野島は軟弱地盤、高潮や津波が来た場合には 10mの洪水が起こる、大野島のことを「あげなところ」と言っていた。しかし、軟弱地盤は地盤改良で解決できる。佐賀空港は完成してから 25 年にもなる。「大川の駅」整備予定地は、佐賀空港と同じ方法で地盤対策されている。また、大野島に 10mの洪水が起きるとい点については、これまで大野島では、台風や津波で洪水が起こったことはない。市長が言われる 10mの洪水は、過去に発生した最大規模の伊勢湾台風、室戸台風、南海トラフ地震をシミュレーションして想定されたハザードマップを見て、大野島だけが洪水が起こると言っておられる。大野島だけでなく大川市全体、引いては日本全国どこでも洪水の可能性があるのではないか。このようなことを言って「大川の駅」反対するということは、市民を脅しているようなもの。市長が大野島のことを、軟弱地盤、洪水、「あげなところ」と発言されたため、大野島は風評被害にあい、住民は非常に怒っている。市長に立候補された方が、自分の自治体を非難するのか。市長は大野島だけに災害が起こると妄想されているのか。そもそも「大川の駅」事業は、産業・観光を振興させる賑わいの場となるはずであった。整備予定地の地権者は、「大川の駅」ができるということで、大切な土地を大川市に譲り移転された方もいる。地権者を含め大野島の住民は、「大川の駅」が出来ないということで、詐欺にあったように感じている。仮に事業廃止を進めていかれるのならば、「大川の駅」事業のために譲られた土地を今後どのようにされるつもりか、市長に考えをお聞かせ願いたい。

市長：最後の質問についてお答えする。有効活用については、様々な方面で、様々なグループを作って、今でも色々な案が出てきている。企業誘致したいという案も出てきている。様々な観点から今後どのように有効活用するか提案していきたい。

会員：まだ、整備予定地の具体的な有効活用案がなく、事業廃止を決定されたことは非常に疑問に思う。今後、具体的に整備予定地の活用案を決定される際は、本推進協議会及び「大川の駅」を盛り上げる会に報告して進めていただきたいが、どのようにお考えか。

会長：本推進協議会は「大川の駅」を作ることが前提となっている。我々は、大川市から委嘱を受けており、任期は7月までとなっている。それまでに解嘱される場合もある。いま市長は（整備予定地の活用案について）今後検討すると言われている。この件について、我々が意見を言う立場にはないと思っている。

事務局：補足であるが、本推進協議会は必要に応じて会長が招集することになっている。今後、協議等を行う

必要が生じた場合は開催することもあり得る。

会員：整備予定地の有効活用案として、企業誘致と言われているが、軟弱地盤で洪水が起こる場所に進出する企業があるのか。

会長：先ほど会員から発言があったが、大野島で洪水が起こったことはない。

市長：企業誘致について、広大な敷地が必要な事業者だが、誘致に様々な難関があり、詳細はまだ言えないが、企業誘致推進室の方に対応を任せている。これは事実であるので報告しておく。

会員：私もこの協議会に4年くらい携わっており、先ほど会長が挨拶で言われた目的のために、大川市にどんな施設が必要か、どんなことをすれば夢を描けるか、交流人口が増えるか、協議をしてきた。検討部会では具体的な検討を行ってきたし、大川の食など将来についてみんなで協議を行っている。若手の市民の方々と市職員も一緒になってやっているの、これらのことを是非活かしていただきたい。ここで協議したことは、色々な人の意見が入っているし、大川市にとって将来絶対に必要なことである。皆さんの意見が詰め込まれているので、よく読んでいただいて、今後の政策や市長の方針に是非活かしていただきたい。

会長：この「大川の駅」事業については、令和2年以前から構想があり、食・ものづくり・島・水辺と大きな目的とコンセプトがあった。市民はもとより多くの方々が何回でも集える場所を作ろうというものであった。「大川の駅」は有明海沿岸道路の中間地点に位置しているし、佐賀空港にも近接し、より多くの方々に来ていただくということであった。そして、福岡県の方にアクセス道路を整備していただくことになっていた。「大川の駅」事業を廃止するということになれば、県はどうするのか、聞いていいかわからないが、まだ立ち消えにはなっていないと思っている。市長は、「大川の駅」事業は廃止するが、県に対して道路整備のお願いはされたか。

市長：これからである。

会長：（事業廃止を）発表する前にお願いすべきではないのか。

市長：（アクセス道路の件について）それは分かっている。ただ、ここは推進協議会の場合だから。

会長：国県との関係をこれからどうしていくのか、市長の手腕にかかっている。

会員：私からの質問は、先ほど会長が聞かれたことである。現在、将来的な土地利用を考慮して整備予定地の盛土が行われていると思うが、アクセスの問題がある。市長が「大川の駅」事業を廃止すると決定されたが、引き続き県の方でアクセス道路を整備していただけるか心配していた。

## 5. その他

副会長：お願いがある。私は4～5年前に検討部会会員、その後、協議会会員として選任された。その頃から多くの意見等を市内の各団体などからいただいていた。また、議会の方でも「大川の駅」特別委員会が結成され、多くの団体や事業者、個人へのヒアリングが行われている。今後、廃止の方針を進めていかれるのであれば、議会の特別委員会でも検証していただければと思う。そして、これまでご協力いただいた団体や企業、個人の方にも説明をしていただければと思う。そのことが今後に繋がっていくものと考えている。やりっぱなしでは良くないと思うので、市から議会の方へこういった意見があったということを伝えていただきたい。

## 6. 閉会

以上

## 「大川の駅」整備推進協議会会員

| 協議会会員名       | 所属団体・機関等及び役職                 | 備考   |
|--------------|------------------------------|------|
| 会員 津村 洋一郎    | 大川商工会議所 会頭                   |      |
| 会員 中島 聖知     | (一社)大川観光協会 代表理事              |      |
| 会員 松田 洋一     | 大川商工会議所 副会頭                  | 欠席   |
| 会員 前田 英治     | (一財)大川インテリア振興センター 副理事長       | 欠席   |
| 会員 河口 健      | (協)福岡・大川家具工業会 理事長            |      |
| 会員 橋爪 福寿     | (協)大川家具商業会 理事長               |      |
| 会員 田中 宏幸     | 福岡大城農業協同組合 代表理事組合長           |      |
| 会員 古賀 雅敏     | 大川市漁協連絡協議会 会長                |      |
| 会員 福永 寛      | 大川市スポーツ協会 会長                 |      |
| 会員 高橋 一精     | 大川未来塾                        |      |
| 会員 野田 見十之    | 大野島コミュニティ協議会 会長              |      |
| 会員 新田 準治     | 夢の島プロジェクト 役員                 |      |
| 会員 島崎 孝久     | 大野島地区「大川の駅」を盛り上げる会 副委員長      |      |
| 会員 久賀 隆弘     | 国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所 技術副所長    | 代理出席 |
| オブザーバー 高田 英二 | 国土交通省九州地方整備局有明海沿岸国道事務所 技術副所長 |      |
| 会員 坂本 二俊     | 国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所 技術副所長   | 代理出席 |
| オブザーバー 黒岩 一文 | 福岡県企画・地域振興部 市町村振興局 局長        |      |
| オブザーバー 有村 雅司 | 福岡県商工部 工業技術センター インテリア研究所 所長  | 代理出席 |
| オブザーバー 住吉 正浩 | 福岡県県土整備部 南筑後県土整備事務所 地域整備企画監  |      |
| 会員           | 大川市副市長                       |      |
| 会員           | 大川市教育長                       |      |